八日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵税 金十五錢
□一部賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜報欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
・福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人 森合英

閼伽生氣

新体制なる言葉の悪用

四丁目 森忠雄

嘗つて徳川時代の國學者の一人が『老いては子に從へ』といふ諺は世間の年老いて頑固一徹のわからず老爺を戒めたもので、子供たるものが自分の親に向つてなどいふべきものでないといふ意味の事を書いたものを讀んだ事があるが諺も逆用すると却つて弊害がある。

◇

新体制といふ言葉は明治時代の自由、文明開化、大正時代の民本主義などと同じく現代に於て各方面に用ひられてゐる一種の流行語のやうなものである。新体制とは何ぞや？一言にしていへば從來のものを淸算して新らしい組織制度を作る事である。しかもこの語には滅私奉公、公益優先等いふやうな意味をも包含してゐる。

◇

新体制といふ語は一般人が時局を認識してその体制に從へ利己的の考へを捨てよといふ意味である、ところが最近この語を悪用して、上に立つ者が、敢へて役人をいふのではないもつと廣い意味だ。自分に都合が悪くなつてくると下の者に向つて『それは新体制に添はない』とおつかぶせて我意を通す事に利用するものがある。もつての他である新体制といふ語は神聖にして犯すべからざるものである、この語を悪用するよ恐るべき弊害を生ずる事を豫言するものである。我々一般人が皆納得して新体制に從つて行動するやうに導くのが上に立つものの任務で、面倒になつて來ると理屈も何も無視して『新体制』をふりかざして臨む事は心すべきであると思ふ。

文藝

文化の國土計畫とも見られる地方文化振興に對して翼賛會文化部は根本目標をどこに求めるか。（東京日々）

「陰翳禮讃」を讀みて（七）

城木伊佐夫

扨、以上で「陰翳禮讃」の極くあらましを述べたが、この「陰翳禮讃」の趣味を端的に云ひ表しだ小説が「タテ喰ふ虫」である。

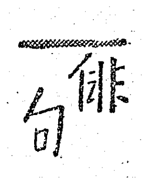
小説中の主人公要の妻の父が大變な凝り性で、「湯殿の造り方などもおそろしく陰氣で高いところに無双窓があるだけだから晝間でも厭にうす暗く、その上、丁字を煎じてあるのが、垢だらけに濁つた藥湯のやうな連想を起させる。」と云つたやうな具合である、この老人が親子程も年の違ふ京生れのお久を連れて、淡路まで人形淨瑠璃を見に行つたり、河舟の中でお久に地唄の「あやぎぬ」を唄はせて、

「年の若い女がやると、唄が綺麗になりすぎていけない三味線にしてももつときたなく彈くやうにつて、いつも云ふことなんだけれど、その心持が呑み込めないでまるで長唄でも彈くやうな氣でゐる……。」

と小言を云ふ老人である、この老人と、近代的な洗練された趣味を持つ要とに「陰翳禮讃」を思はせる對話をなさしめてゐる、その爲に或一部の批評家には余りに谷崎氏の趣味に偏した小説であるとの批難があるやうであるが、これは此小說の價値を少しも低めるものでなく、矢張り傑作であることには變りはない、

考へてみればわれ〳〵は日本的趣味と近代文化とが不調和にある過渡期に生れ合せ、近代的文化施設を生活に取り入れながらも昔の「陰翳の中に美を創造する」われ〳〵の祖先の遺風が、まだ心のどこかにひそんでゐて、種々の矛盾に遭遇はするがかうしたものに憧憬を感ずるのではなからうか、今後百年も二百年も後の時代には、日本古來の美と文化的施設とに、何等の矛盾も感じないで調和した生活を送るのであらう、そして「陰翳禮讃」の中にある話などは、われ〳〵の時代ほど興味深くは感じないだらう、と漫然とこんな事を考へて、何となく淋しくなつた（完）

明日より本欄を「學藝」とし學術的な方面の記事も掲載する事にします。折角本欄を御利用地方文化開發のため御援助下さる事をお願ひします。早速明日より、醫學博士五十嵐雄二氏の「醫學上より觀たる東北地方の人口對策」を連載します



俳句

早春

（平）霞ヶ浦人

征き人に今年も咲きぬ鉢の梅
早春の橙青き藪そがひ
早春や枝に音ある檜枯葉
早春や吊りて切らるゝあん鱇魚
初晴や船にたてたる旗大漁

連續講談 異説赤穗浪士（いせつあかほらうし）〔120〕

桃川若燕

畫 城木喬

戀の大石

そこへ主人の次郎左衛門が出て來て、

『コレ〳〵長吉、其方は何故その脇差の鞘を拔いたのだ、お武家樣のお腰の物は魂ではないか……』

小言を云つてゐるところへ娘のお輕が、

『父さんアレ向ふにお侍樣がお見えになりました、大方腰のものを落したのでこれを見付けていらつしやるのでございませう』

『成る程、向ふにいつも醉つてお通りなさるお武家樣が見える、それぢやアこれをお渡し申さう』

『父さんその脇差は私がお武家さんにお渡し申しませう』

と父の次郎左衛門から脇差を受取つたお輕、表口から驅け出して大石のゐるところへ來ると、

『モシお武家樣、貴郎はまた此間のやうに腰のものをお落しなされは致しませぬか』

『コレハ〳〵二文字屋のお娘御、イヤ何とも申譯ない、又落した、實はそれゆゑ人目にかゝつてはならぬと急いで尋ねて參つたところぢや、若し拾つたら渡してくれるやう』

『ではお渡し申しますが往來中では目に立ちますゆゑどうぞ私方へお出でなされまし』

『イヤ參らう、毎度御迷惑のみ掛けて相濟まぬ……』

連れられて大石は二文字屋へ來る、夫れと見ると次郎左衛門は、

『これは〳〵お武家樣、サヽ端近でございますからどうぞ奥へお通り下さいますやう』

『では御免蒙る』

と奥へ通つて、

『さて御主人何とも面目ない次第でござる、實はワキ差を落したがこの娘子に拾はれたさうな、往來中では人目にかゝつて五月蠅に依つてこれまで參つた、脇差を拙者にお渡し下さるやう』

『イヤ御尤も樣でございますそれでは娘、さつきのワキ差をお武家樣にお渡し申しな』

『ハイ』

とお輕は大石の前へ手を突いてワキ差を渡す良雄は此時初めてお輕をジロ〳〵見たが見れば見る程美しい、祇園伏見島原と浮かれ歩いてゐる大石だから浮橋太夫を初めとして美人の數は澤山見てゐるが、このお輕はそれ以上、然も太夫達と違つて飾られた美しさではないから一段と魅力がある、英雄色を好むとは古今の通言、大石も敵を欺く計略の郎通ひではあるがお輕には心動いたか、熟つと見つめる、お輕は見詰められて面はゆく、袖を顔に當て、一寸横を向いたが、その横顔が又美しい、芝居では岡惚れの役は鷺坂伴内だが、實際は大石、やがて我に歸り、

『イヤ、これは〳〵忝ない、御主人これ御覽下さい、實はこの通り定紋を金象眼にいたしてある拵へゆゑ、他人に拾はれては直ぐに目印があるから世間中へ恥を云ひ觸らさねばならぬ、それゆゑ今朝早く密つと尋ねて歩くところでござつたそれを拾つて置いて下されたは實にお禮の申上げやうもない』

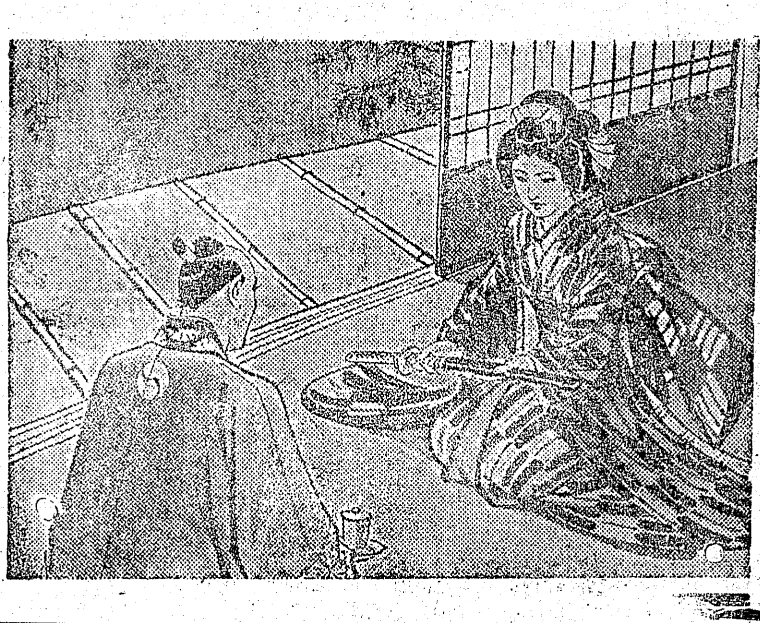
『どういたしましてお武家樣その樣にお禮を仰しやられては却つて痛み入ります、定めし御酒機嫌の事でございましたらう……』

『イヤお察しの通り、大醉をいたして正体もなくなつて仕舞つて取落したのでござる、お聞き及びでもござらうが、拙者は……』

『イヤもう仰られずとも存じて居ります、山科にお住居なさるゝ大石樣』

『されば大石は拙者の事、以前は千五百石を頂戴いたした赤穗の城代家老、如何に浪人したからといつて腰の物を途中に落すなどゝ申す事を云ひ觸らされては先祖に濟まず、同じ浪人仲間の朋輩に聞えてもはづかしい儀、何分この儀は內聞に……』

と厚く禮をのべて立歸る



新刊書籍
月刊雜誌
特價圖書販賣店
三英堂
村山書店
平市驛前中央通り

時局の生んだ新案特許
日の丸習字板（第二八〇五七八號）
使用法：半紙節約ノ目的ニテ墨デ書イテ濡雜巾ニテ拭ツテ置ケバ何回ニテモ使用出來マス
實用新案（メモ板 第二七九〇四號／野球ベール 第二七九七三號／興亞ノート 第二四七九八號）
專賣特許 興亞厚紙 第（イ）一七三六〇號 第（ロ）一七三六一號
合資會社 興亞特許商事
同工場 月見町三三

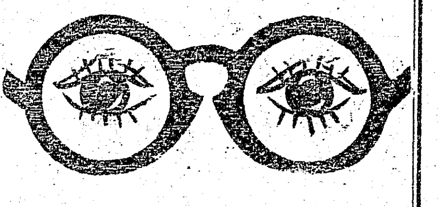
お醬油は 合
味噌、醬油
たひら正宗
鰹節、食料品
鹽屋 山崎合名會社
明治生命磐城代理店
福島縣平市 電話 營業部一〇番 本店一二七番
山崎與三郎

平 40錢 2割引往復券 四倉
▽新舞子 約二丁
▽仁井田浦 約三丁
▽四倉海岸 約一丁
▽波立藥師 約八丁
▽鰐ヶ淵 約八丁
團体は特に御相談に應じます
合名會社 平。四倉・乘合自動車 電話五四九

國民精神總動員
日本國民必見の書……
內閣情報部發行
寫眞週報
一部十セン
お取次致して居ります
平二 西村屋藥局 電三

◇和文歐文タイプライター
◇最新事務用品類
◇文房具一式
◇製圖並に測量用品
◇謄寫版並に附屬品
東邦タイプライター代理店
東邦タイピスト養成所
平市田町銀座街
藤森（藤森事務用器商會）
電話三七〇番
振替仙臺五一番

便利で經濟な
日下家政婦會の派出婦を御利用下さい
身元確かで品行方正ですから何をお任せしてもご安心です
日下家政婦會
平市一丁目三一番地（電話七二三番）
會長 日下すい子
會員同志の御加入（派出なき閑暇に裁縫や編物をお教授致します）を御誘ひ致します



メガネ專門の店
メガネは絶對信用ある當店に先づ御相談下さい……
玉屋
平市本町二丁目

酒 乙ふ身で おいしい味 [illegible]

新時代の要求
附屬事業に等外看護婦を特設いたし皆樣の御用向へ身元確實なる婦人を派出致します
平市南町 電三〇七
平看護婦會
會長 清野キヨ
御手不足の御家庭
輕い御病人の付添
姙婦産婦の御家庭
經濟的な御便宜御用命をお願ひ致します

磁氣應用治療（マグネタイザー適應症）
【循環器系統】血壓亢進症、動脈硬化症、心臟病、心悸亢進症、貧血症、肩の凝り、
【神經系統】神經衰弱、不眠症、神經痛、頭痛、小兒痲痺、腦溢血、腦充血、腦貧血、ヒステリー、腦膜炎、中風、
【消化器系統】胃痛、胃擴張、胃酸過多、胃痙攣、胃腸加答兒、脚氣、消化不良、便祕、下痢、胃潰瘍
【呼吸器系統】[illegible]肺結核、感冒、
【泌尿生殖器系統】淋疾、消渇、腎臟炎、膀胱加答兒、副睪丸炎、性慾減退、糖尿病
【婦人科系統】子宮癌、月經不順、其他一般婦人病並に產前產後の諸病、淋毒性子宮疾患
【外傷其他】打撲傷、脊髓カリエス、骨髓炎、骨膜炎、淋毒性關節炎、レウマチス、蓄膿症、耳鳴、中耳炎、痔疾皮膚病一般等
平市田町（驛前）
シンガーミシン會社二階 物理療法磁惠院

耳鼻咽喉科專門
レントゲン科
平驛前
醫學博士 高柳博明
高柳醫院
電三三六

國民學つて防火塗装を！
□危險に曝露する木造家屋
□手輕るに出來る防火家屋
□コロイド防火塗料の特長
1、太陽無機コロイド塗料は絶大の防火力を有します
2、本品の右に出る防火塗料は他にありません
3、粘着力非常に強く木材によく密着します
4、既設家屋に自由に施工が出來ます
5、刷毛にて簡單に施工が出來ます
6、價格が低廉で經濟的です
7、塗面が汚れた時は水洗ひすると直ぐ綺麗になります
8、工業試驗所は本品の防火力を一、二五〇度と御證明下さいました
□大量使用の御注文並に團体的御申込へは實驗の御希望に應じます
特許專賣 太陽無機コロイド販賣店
山田文一商店（平市仲町通り 電話二六二番）
カタログ進呈

漢方貼藥
濕布で名藥 生公華
肋膜。氣管支。關節。神經痛。肺炎。ロイマチス 扁桃腺・中耳炎・骨膜・腰痛・ニ疾に
藥價 二圓五十錢 四圓 八圓
平市五丁目角
專賣店 山野邊藥局

大衆向きの小口保險
三百圓より大口契約も
板谷生命保險株式會社
小名濱代理店 比佐政種
好條件で外交員募る

お宅の体温計は正確ですか？
毎月十日は無料で体温計を檢査して差上げます、どうぞ御遠慮なくお持ち下さい
營業課目
醫療藥品 有名賣藥 食糧品 寫眞機材料 吸入用酸素
工業藥品 衛生材料 化粧品 染料塗料 計量器各種
計量器指定販賣所 みやこ藥特約店
資生堂
小名濱町本町通り 電一四七

日立製作所指定工場
機械製作船陸
一般鐵工業
丸八鐵工場
場主 倉兼常八
小名濱町 電一七五

口腔外科、齒科一般
レントゲン科
門馬齒科醫院
院長 門馬忠男
小名濱町中島通

土木建築
鐵道船舶仲仕
三崎組（事務所）
太田勝康
小名濱町日素前
電話五〇番

第三回目の平市常會

正味三時間愼重檢討

生活改善案は市理事者一任

平市常會第三回委員會は七日午後一時から市會議事堂に開會、市側から伊藤助役、長谷川學務課長、委員顧問等四十五名出席

1、公私生活刷新改善の件（前回留保中のもの）

2、興亞奉公日新方策實施の件

3、物資配給について報告

の三案について愼重檢討を加へ三時間に亘つて熟議を凝らし第一案の公私生活刷新改善案は異論あつて意見一致せず結局未決定のまゝ市當局に一任、市長は常會の意見を參酌の上取捨選擇して成案を區內會長へ傳達、隣組をして實踐せしむることに成つた、留保された公私生活及冠婚葬祭改善刷新案の主要項目は次の如し

1、公私生活に關する件

2、婚禮に關する事項

3、出產祝其の他

4、葬儀及法要に關する件

興亞奉公日再發足

全市民へ徹底

興亞奉公日の再發足案に關しては特に昭和十四年八月八日閣議決定要項を提示して參考に擧げ、新方策實施について意見を交換、常會を通じ左の要項を全市民に徹底せしむることに成つた

◇趣旨

興亞奉公日は昭和十四年九月一日を以て實施し爾來此の日は國民の自肅自省の日とし相互に戰場の勞苦を偲び大政翼贊の誠を致し以てこれを日常生活に於ける恒久的實踐の源泉たらしむべく此が普及徹底に努めたりしも一部には今尙銃後奉公に遺憾なるものなしとせざるを以て今回大政翼贊會は一層興亞奉公日の趣旨を徹底し眞に一億一心これが實踐を期し所期の目的を達成せんとす

◇實踐事項

興亞奉公日に於ける國民の實踐は重點主義とし「勤勞と增產」の日たらしむと共に其の季節と地方の實情並に時局下の運動を考慮に加へて反省と實踐の精神を籠めて積極的努力を傾注すること

◇實施方策

イ、一般の方策　興亞奉公日の眞義徹底に努め特に部落會町內會等の常會に於て此の實踐強化を圖ること

ロ、官公署方策　官公署は率先して垂範の實を擧ぐること

ハ、會社工場銀行商店等の方策　各々實行の申合をなし實情に即して奉公日の實踐を期すること

ニ、學校各種團体の方策　夫々興亞奉公日の趣旨徹底に努め之の實踐を強化すること

配給狀況明示

統制の强化に備へる

生活必需品として現在配給制に依るもの十五種を數へ今後統制の强化に伴ひ配給物品も增加するものと見られてゐる爲市當局から常會に對し現在の配給情況を左の如く報告し諒解を求め協力方を要望した

⊠砂糖、家庭用は卸店に集荷市內一人當八十匁、特種用乳幼兒、祝祭等別に配給

⊠木炭、警察署と林產物檢査所が集荷狀況と家庭の消費狀況に照し配給決定する大体月二、三回で一回の分量は一戶當り〇、五乃至九俵の割合

⊠手拭、一般家庭用に配給する（タオル含む）

⊠衛生綿、一般家庭に配給するが婦人の數年齡等充分考慮に入れる

⊠乳幼兒綿製品、出生屆に依り產業課で調査の上到着順に配給劵を交附する

⊠自轉車、市へ證明願提出買受け資格順位に依つて市役所が證明書交附

⊠マッチ、砂糖配給劵で配給する、特種なものは配給願を出す

（以下地下足袋、ゴム靴、米綿絲、セメント等略）

久和新署長

平常會參與に推薦

平市常會の參與前署長渡邊勇吉氏が轉任した爲昨七日の市常會で新任平署長久和健一氏を參與に推薦した

交換孃採用

廿名嚴選

今年度平郵便局電話交換手採用試驗は去る二十九、三十の兩日行はれたが應募者三十四名のうち二十名が採用と決定この程平局から發表された、今回の試驗は從來の學科の外適正檢査も行ひ一層嚴重にした、合格者次の通り

柾田重子、大原やい子、柴田滿穗子、丸山美知、池津壽貞夫、椎名和子、門馬昭子、猪狩昭子、佐藤昭子、山內トミ子、木田美智子、大森久子、柴野サクヨ、高木トシ子、伊藤篤子、伊藤トラ子、菅本トキ、八美ツルヨ、東崎ケサ子、猪狩キヨ子

江名永崎部落民が

報恩の銅像建設

太、吉田兩氏をめぐる美談

江名町大字永崎部落は沿岸切つての海產物（鰮加工）工場地帶として隆々たる發展を見せ全部落殆ど家庭工業に精進し信用組合への預金は二十萬圓を突破して裕福部落の名を恣にしてゐるが、過ぎる昭和八九年頃迄は副業として沿岸磯邊に海藻魚貝を漁り小名濱へ賣出し漸く生計を補つてゐたものである『當時江名信用組合專務理事太淸左エ門氏は部落の疲弊を見兼ねて實行組合の案を立て資金を提供し時の實行組合長吉田長八氏と共に指導宜しきを得た爲め今日殷賑を見た』と云ふので永崎部落實行組合では積立金一千二百圓を兩恩人の爲めに提供し銅像を建立すべく計畫を進めたが、これを聽いた吉田厚、瀧口正毅の諸氏も我等は別働隊としてこの美擧に協力しようと自ら數百圓の寄附をして同志を說いた爲め莫大の金額となり當の太、吉田兩氏も感激してゐる

實行組合では前記の計畫に基き立派な銅像を建設すべく設計も出來その筋へ認可申請した處『時局柄當分見合せよ』と注意があり強て建設するとせば代用品にとの事で、延期するか代用品の大理石乃至木像かに思案投首の態だが恩義に對する報恩の心組は近來の美擧として全町の話題に上つてゐる

平國防婦人會が

死藏品獻納運動

歡送旗、ノボリを獻じませう

平市國婦分會では昨報の如く遺家族慰問、寫眞撮影等銃後の奉仕に專念してゐるが今度家庭に死藏してゐる「節句のノボリや入營出征等の歡送旗」を兵器掃除用その他軍の必要品として獻納運動を起し各家庭の協力を求めるため左の案內を各戶へ配布した

◇お願ひ

【前略】此度其筋よりの御要求に依り各御家庭に死藏せらるゝノボリを御寄附頂きまして我が若松部隊に獻納いたすことになりました、これは兵器掃除にぜひ必要なのださうですからどうぞ左記お含みの上お國のために御寄附願ひます

◇獻納品

1、入營出征等の歡送旗

2、五月節句のノボリ

尙この獻納品はスフでも差支へなく近日中に國婦役員が各家を訪問する筈である

防火功勞表彰

無盡金庫の渡邊君

平警察署では福島無盡金庫外交員渡邊竹吉君を火災鎭火の功勞で近く表彰する

同君は去る二十九日午後七時頃平市新川町大塚禮次郞さん方から發火したのを逸速く發見、顏面の負傷も顧りみず消火に努め大事に至らぬうちに消止めたものである

義母の供養に

百圓寄附

四倉の渥美茂平さん

四倉町字原田セメント社宅渥美茂平氏母ツネさんの死亡に際し供養の爲金百圓を左の如く寄附した

△五十圓、四倉銃後奉公會

△三十圓、四倉小學校講堂建設費△二十圓、國防婦人四倉分會

新任江名警防團長

金成喜重氏信念を語る

江名町二代目警防團長としてこの程就任した金成喜重氏は人も知る硬骨漢として信念に強く時局下の防空火防の要領としては適任者であるが初代黑川團長に殉じて辭表を提出した幹部も數人あり、殊に副團長として令名高き遠藤勝馬氏も當時辭表を出したが懇合の結果翻意して共に第一線に活躍を誓つた、記者の訪問に金成團長就任への心構へを次の如く語る

この非常時局下に於て團長を引受ける以上、自身を無にして、軍人が第一線に立つ心構で行くつもりだ、苟も身幹部の要職にあるものは身を以て範を示し名譽職欲しさに、その職を汚す如きあらば斷を以て臨む覺悟だ、この意氣こそ銃後國民の心構でなければならないと思ふ

常磐炭礦の成功者

高階一郞氏死去

十二日午後一時告別式執行

平市四軒町居住高階炭礦高階一郞氏は舊年來東北帝大病院で加療中の處去る一月三十日死去した同氏は石城郡內鄕村大字白水に本籍を置き、伊達郡判田村出身である當初三星炭礦に入り品川白煉瓦赤井鑛業所主任から五十嵐炭礦經營に參畫、昭和九年高階炭礦を起して以來順調な業績を擧げ現在同鑛の他瑞浪炭礦、龍生鑛業など經營炭礦の成功者である、享年六十九、息次郞さんは磐中から目下東京帝大造兵科在學中倘葬儀は十二日午後一時から二時まで自宅に於て告別式を行なひ良樂寺に埋葬する

列車追突事件

公判延期

廿一日午前十時開廷

四倉驛構內の信號停止失念から貨物急行列車の追突事件を惹起せしめ殉職鐵道員二名と多數傷者を出した列車椿事の責任者、同驛助役伊藤久右エ門氏の公判は七日開廷する豫定の處二十一日に延期した

大瀧發電所

調査委員會十二日開く

平市大瀧發電所調査委員會は十二日午後一時から市會議事堂に開催する

自衛團査閱

五月十一日まで延期

十六日執行の豫定であつた磐城、入山、古河三大炭礦自衛團査閱は都合に依り五月十一日まで延期した

少女の眞心

平市番匠町尋二塙みや子さん外三名は古鐵、ガラス等廢品回收して賣却した五十錢を七日陸軍恤兵部へ獻金した

烈風被害なし

漁船も避難

七日深夜から八日朝へかけて吹き捲つた烈風は西十四米に達し磐城沿岸各漁港は春職鰯揚繰船の停泊で港灣を埋めてゐた爲風浪に依る被害を氣遣はれてゐたが幸ひ港內の漁船には被害無い模樣であるが改修中の商港岩壁も平土木監督所の調査に依ると損害なかつた

荻洲中將招聘

江名同窓會の計畫

江名校同窓會は二月十一日の紀元節に本校に於て總會を開催する事になつたが當日は超非常時を靑年に一層認識させようと、會長佐藤德太郞氏外幹部が協議の結果、鬼將軍として三軍を叱咤した、本縣に最も緣故の深い荻洲中將を招請し講演を聽く事になり、その手續中だが、萬已を得ざる場合は次善の方法を講ずる事になつてゐる

道路愛護表彰

平管內で鹿島村入賞

縣では例年紀元節をトし道路愛護關係優良團体の表彰を行つて來たが今年平土木監督所管內表彰者は十五團体のうち鹿島村道路愛護會が二等賞を得た

同鹿島道路愛護會は昭和七年以來の優等賞保有者で十一日午前九時から平土木監督所に所長から知事賞の傳達表彰式を執行する

友達の宿で

失戀自殺

磯原の娘一命取止む

茨城縣多賀郡磯原町柳生キタ子（三二）さんは友達の平市紀州下宿業曳地ヤイ子さん宅に宿泊中、七日午前四時頃カルモチン自殺を企てたが生命は取止めた原因は失戀から

中風老人

爐端で燒死

好間村大字下好間字大館無職榊原辰次郞（六〇）は七日午前九時頃自宅の爐端で暖をとつて寢入んでゐた處着物に火がつき同人は中風のため身動き出來ず大火傷を負つて燒死した

歩漫の素人記者

（12）

今井岩根氏の印象

◇◇◇◇◇◇◇◇

時局下の大工場經營者

稻　水　生

社から電話をかけたら偶然にも當の今井氏が電話にかゝられた應對振からこれは氣輕な人らしいなと思ひながら自轉車に飛び乘つた。二月五日の午前十時、薄日も射さぬ冷たい日であつた。新川町を通つて會社の前に行くと大きな煙突が胸のすくやうな男性的な壯大感をそゝる。實際あの煙突を仰いでゐるとけちな人間らしい氣持が吹き飛んでしまふやうな何ともいへぬ雄大感に打たれる。暫く門の所で私は煙突を仰いで立つてゐた。事務所の玄關に立つた。馬鹿にひつそりとしてゐると思つたら七日迄女工さん方が休みなのださうである。

應接室に通つた。火の氣もない。主人公はなか〜出て來ない。とても寒い。その中に火鉢を持つて來た。やれやれ今日こそは新聞記者らしい待遇を受けるのかなと思つて少し憂欝になつた。その中にお茶を持つて來てくれた。しかし當の今井氏は相變らずなか〜姿を見せぬ。十分以上は待つてゐたらう。少し待ち遠しくなつた。暫くしてやつとあらはれた今井氏は毬栗頭にジャンパー姿といふ扮裝だ町の中で會つたならどう見ても片倉工場の場長さんとは見えぬ。新体制は先づ頭と服裝からといふ所である。まことにたのもしい限りだ。お年は四十六歲、長野縣の御出身ださうである。「今日はひどく冷えますね」といつて火鉢に足と手をかざす。いかにも氣輕さうな氏の態度に接した時はすつかりさつきの氣持はけしとんでしまつた。今日は少しくだけて御家庭やその他の事を伺ふ事にした。

私の父はもと學校の先生でして、現在七十四才で鄕里に生存して居ります、さうですね、諏訪郡志といふ本をずつと前から編纂してをりまして、今でもやつてをります。釜屋さんで御覽になつたんですか。先年わざ〜諏訪からやつて來ましてね、さうです、その諏訪郡志の調査です、芭蕉の弟子の曾良といふ人がありますね、あの人が內藤公（平藩主）が俳句が好きなので諏訪公の使者としてこの平に來たことがあつたといふのです三日ばかり泊つていろ〜調査したが好くわからないで歸つたやうです。釜屋の會計さんがあの火葬場の側の寺に芭蕉の句があるとかいつてくれたのでそれをうつしてやつた事がありますよ、兄弟ですか十人です。男が六人です。三人は私と同じやうに蠶糸事業に關係してをります。長兄は盛岡の片倉工場にをります。さうですか、私も盛岡に一年ばかりをりました。弟達二人は應召しました。次兄は學校の先生です。まあから兄弟の多いのは國策型でせうね、昨年母がなくなつてこの兄弟が子供を連れて集つたが、いやあ大した賑はひで寄宿舍でも作らねばならんやうな騷ぎでした、何分合計子供と孫とで五十と六人ですからね。私の學歷ですか。全くの無敎育でして小學校だけですよいや別に偉い事なんかありませんよ。眞面目に此仕事を一貫してやつて來ただけです。長野縣は人物が出て居るつて？そうですね總理大臣は出てゐないが最近いろ〜の人が出てゐます。諏訪志なんかも鳥居さん（人類學の學者、文博）今は今井登志喜さん（文博、帝大教授）が監修して居ります。そのかけてある寫眞ですか、それは昭和九年の十一月に東久邇の宮殿下が御台臨になつた時の寫眞です向つて右側の和服姿は久太郞さん、青沼さんが後の方にゐたでせう。こつちですか、それは井上茂作さんですよ。

こんな調子にその服裝の如くに勿体ぶらずにぶつきら棒に笑ひながら話をしてくれた。場內を案內しながらも、いろ〜と工場の事を親しく說明してくれたが女工さん方がゐないさうだしするので、後日を期して十一時のサイレンを門の戶で耳にしながら自轉車に乘つた。

天氣豫報

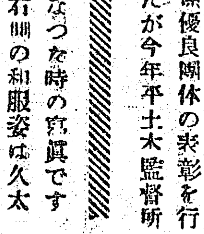
今晚　西の風晴れ勝の天氣

明日　北西の風晴勝の天氣

（九日）

滿潮　前三、三五　後一、三〇

干潮　前八、三五　後九、一五



舊正月十四日　新二月九日　日曜　戊子　友引　開　虛宿

▲一白　勢力次第に加はる日起業開店旅行緣談等吉

▲二黑　福の神に取卷かるゝ如し諸事進展利あり

▲三碧　物事期待に反き悲哀起らんとす病盜難注意

▲四綠　意氣更に揚らず沈滯の氣運に呻吟するの日

▲五黃　活氣自ら加はるも勢に乘ぜず愼重なるに吉

▲六白　眼前の小利に迷はず永遠の計を樹つるに吉

▲七赤　自負心を生ずるときは德望は一朝に失墜す

▲八白　萬事榮達を遂ぐる日名弘開店相談普請等吉

▲九紫　處置宜しきを得ざれば家勢衰へんとする日

東亞共榮圈に一新紀元を劃する新春堂々たる一大獅子吼の殉情大浪曲!!

ビクターレコード專屬

玉川勝太郞一行來演

二月十二日（舊正十七日 一日限り）

【入場料金八十錢稅共】

會場　聚樂館

風戶興行部責任

平陽女學校の卒業生一同に告ぐ

來る二月九日左記に依り本校同窓會並に音樂會開催に付同窓生皆樣の多數御出席をお待ち申上げます

◇二月九日午前八時半
本校講堂ニ於テ同窓會

◇全日午後一時
公會堂ニ於テ音樂會

平陽女學校

謹告

今回其筋の慫慂と各業者新体制下に即應して市內六タクシーを合同致し營業所を平驛前元昭和タクシーに設置致し營業開始仕り候

從つて今後は一切當營業所以外に於てはタクシーの御用命は申受けざる事と相成り候倍舊の御引立御願申上候

昭和十六年一月十日

有限會社　平合同タクシー
電話三四三番

御得意樣各位

父高階一郞儀東北帝國大學附屬醫院に於て加療中の處一月卅日午前一時三十分死去致候間生前の御交誼を深謝し此段謹告仕候

追て葬儀は佛式にて二月十二日午後一時より二時まで自宅に於て相營み申可候

尙時局柄故人の遺志に依り御供物花環並に御香奠等の儀は固く御辭退申上候

昭和十六年二月九日

福島縣平市字四軒町十四番地

男　高階次郞
外　親戚一同

當礦々主高階一郞儀一月三十日午前一時三十分東北帝國大學附屬醫院に於て死去致候間茲に謹告仕候

昭和十六年二月九日

高階炭礦鑛業所
瑞浪炭礦鑛業所
高階鑛業龍生山